

#7 イエスの霊

(国際長老責任者訓練)2018/12/24-12/30

I. 私たちは、復活し昇天したキリストを、イエスの霊(聖霊)として経験し享受することができます。

II. 私たちは使徒第16章6節と7節の二つの神聖な称号、すなわち「聖霊」と「イエスの霊」に細心の注意を払う必要があります:

A. これら二つの称号が交換可能な方法で用いられていることは、イエスの霊が聖霊であることを啓示しています。

B. 「聖霊」は、新約における神の霊の一般的な称号です:

① 「聖霊」という称号が最初に用いられているのは、主イエスが胎に入った時です:

a. 「聖霊」という称号が用いられたのは、新約の経綸を開始するために、キリストが来られるために道を備え、彼のために人の体を備える時が来たときでした。

b. 「聖霊」という称号がどのように最初に用いられたかを理解するために、私たちはこの称号が主の肉体と成ることと関係があることを見る必要があります。

c. 最初の記述の原則によれば、「聖霊」はキリストの肉体と成ることと誕生と関係があります。

② 新約において、「聖霊」という称号は、神が今やご自身を人とミングリングしていることを示しています。

C. 「イエスの霊」は、神の霊に関する特別な言い方であり、肉体と成った救い主の霊を指しています。この救い主は人性におけるイエスとして、人の生活と十字架の死を経過しました:

① イエスの霊の中には、神の神聖な要素があるだけでなく、イエスの人に属する要素と、彼の人の生活や彼の死の苦難の要素もあります。【月】

② イエスの霊は、神の霊であって、彼の中に神性を持っており、私たちに神聖な命を生きさせるだけでなく、人なるイエスの霊でもあって、彼の中に人性を持っており、私たちに正しい人の生活をさせ、その中の苦難に耐えさせます:

a. パウロは苦難を受けていた時、イエスの霊を必要としました。なぜなら、イエスの霊の中には、苦難に耐える要素と、苦難に耐える力があって、迫害に抵抗することができるからです。

b. 私たちも今日、福音を宣べ伝えるとき、反対や迫害に直面するためにイエスの霊を必要とします。

D. 使徒第16章7節において、ルカは聖霊からイエスの霊に転換しています:

① イエスは人として、まず人の生活をし、それから十字架につけられ、復活させられました。

② 彼は天に昇り、主またキリストとされました。【火】

③ ですから、「イエスの霊」は、主の人性、人の生活、死、復活、昇天を暗示しています。

④ イエスの霊は、聖霊よりも多くのものを含んでいます:

a. 聖霊は、主イエスの肉体と成ることと誕生だけを含んでいます。

b. イエスの霊は、彼の人性、人の生活、死、復活、昇天を含んでいます。

⑤ イエスの霊は、すべてを含むイエスの総合計また完全な実体化です。

E. キリストの霊がキリストの実際であるように、イエスの霊はイエスの実際です:

① もし私たちがイエスの霊を持っていないなら、イエスは私たちにとって実際にはなりません。

② イエスが私たちにとって実際であるのは、私たちがイエスの霊を、イエスの実際また実体化として持っているからです。【水】

III. 復活の中でまだイエスの栄光が現されていなかったのに、まだなかったその霊は、イエスの人性を持つ霊です。今日、その霊は栄光が現されたイエスの人性で構成されています:

A. 私たちが飲み、私たちの内側から流れ出る生ける水であるこの霊は、イエスの人性で構成されています。イエスの人性がなければ、そのような霊は決してあり得ませんでした。

B. 人の本質がなければ、神の霊は流れる命の水となることはできなかったでしょう。もし神が流れる命の川となろうとするなら、彼はイエスの人の性質で構成されなければなりません。

C. 「栄光が現されたイエスの霊が『今やあります』。…私たちが彼を受け、彼は私たちの中へと流れ込み、私たちを通して流れ出て、私たちから流れ出て祝福の川々となります」(アンドリュー・マーレー)。【木】

D. 私たちは福音の宣べ伝えるために、召会の奉仕のために、私たちの日々の歩みのために、主の回復のために、イエスの人性の霊を経験し享受する必要があります。

IV. 使徒パウロと彼の同労者たちの福音の拡大のための行動は、彼らの決定や好みにしたがっていませんでしたし、人の会議によってなされた何かの計画にもしたがっていませんでした。それは、イエスの霊によるものでした(使徒16:6-7):

A. 彼らの働きは聖霊(主の肉体と成ることと誕生を含んでいる—6節)と、イエスの霊(主の人性、人の生活、十字架、復活、昇天を含んでいる—7節)によりました。使徒たちはそのようなすべてを含む霊の指示と導きの下で行動していました。

B. 私たちが主のためにどのような働きをするかは、私たちがどのような霊によって導かれ、指示され、教えられ、構成されているかにかかっています:

① パウロは三一の神を内容とする器として、聖霊(主の肉体と成ることと誕生を含んでいる)とイエスの霊(主の人性、人の生活、すべてを含む死、命を分け与える復活、昇天を含んでいる)で完全に構成されていました。

② パウロはすべてを含む霊で構成されていた人でした。こういうわけで、彼は真にイエス・キリストを宣べ伝えることができたのです。

③ その霊が私たちの構成となるなら、私たちの働きはこの霊の表現となり、私たちはイエスのための働きをしましょう。彼は、肉体と成った方であり、人性、人の生活、死、復活、昇天を持っています。

④ もし私たちがイエスの霊で構成されているなら、私たちはすべてを含む方としてのイエスを供給する働きを行ない、そのような方としての彼を他の人にもたらしすでしょう。【金】

V. イエスの霊は、ピリピ人への手紙の最初の二つの章においてはっきりと描写されています:

A. ピリピ第1章には、福音の宣べ伝えがあります。福音を宣べ伝えるためには、イエスの霊を必要とします:

① この章は、ねたみや闘争心のない、福音を前進させる交わりについて語っています。

② 四福音書において提示されているイエスの命は、ねたみや闘争心や競争心のない命です。こういうわけで、イエスの霊には、ねたみや闘争心や競争心がありません。

③ 私たちはイエスの霊の中で、ねたみや闘争心や競争心を持たずに、福音を宣べ伝えるべきです。

B. 福音を前進させる交わりは、私たちが一つ霊の中にいて、一つ魂を持っていることを要求します:

① もし私たちがイエスの霊の中にいないなら、私たちは福音を前進させる交わりの中にいません。

② イエスの霊の中でのみ、私たちは一つ霊の中にいて、一つ魂を持つことができます。

③ 私たちはキリストを経験するために、イエスの霊によって、ねたみや闘争心や競争心を持たずに、福音を前進させる交わりの中にいる必要があります。

C. イエスの霊によって、私たちはキリストを私たちの模範とすることができます:

① イエスの霊によって、私たちはイエスのように自分を低くすることができます。

② イエスの霊によって、私たちは使徒パウロの要求を満たし、他の聖徒たちを顧みることができます。

③ イエスの霊によって、私たちは一つの事を思い、同じ愛を持つことができます。【土】

Crucial Point①:使徒行伝の継続となるため、 イエスの霊の導きに従う

OL1:イエスの霊は、神の霊であって、彼の中に神性を持っており、私たちに神聖な命を生きさせるだけでなく、人なるイエスの霊でもあって、彼の中に人性を持っており、私たちに正しい人の生活をさせ、その中の苦難に耐えさせます。

使徒 16:6 また、彼らはアジアで御言を語ることを、聖霊に禁じられたので、フルギヤとガラテヤの地方を通って行った。7 彼らがムシヤに来た時、ピテニヤに入っていくとしたが、イエスの霊が彼らを許さなかった。

FN「聖霊」:ピリポの宣べ伝えの働きもそうであったように、使徒パウロと彼の同労者たちの福音の拡大のための動きも、彼らの決定や好みにしたがっていませんでしたし、人の会議によってなされた何かの企画にもしたがっていませんでした。それは、神の協議にしたがった聖霊によるものでした。彼らはアジアで言葉を語るつもりでしたが、聖霊はそれを禁じました。禁じることも、やはり聖霊の導きの一部です。

FN「イエスの霊」:「イエスの霊」と前の節の「聖霊」は、交換して用いることができます。これは、イエスの霊が聖霊であることを啓示しています。「聖霊」は、新約では神の霊の一般的称号です。「イエスの霊」は、神の霊についての特殊な表現であり、肉体と成った救い主の霊のことを言います。この方は、イエスとして、人性において人の生活と十字架上の死を経過されました。これは、イエスの霊の中には神の神聖な要素だけでなく、イエスの人の要素、彼の人の生活、彼の死の苦しみの要素もあることを示しています。使徒の宣べ伝えの務め、すなわち人の生活において人の間で遂行され、人のために苦難を受ける務めのためには、そのようなすべてを含む霊が必要でした。

FN「許さなかった」:聖霊が彼らに左へ、すなわちアジアへ行くことを禁じたことと(6 節)、イエスの霊が彼らに右へ、すなわちピテニヤへ行くことを許さなかったことは、使徒と彼の同労者たちにとっては、真っすぐ進むことを意味しました。こうして彼は、ムシヤとトロアスを経て、マケドニヤへの直進コースを取りました(8 節)。

青年在職/大学院生編

あなたは使徒行伝の継続として、イエスの霊によって行くことを禁止されたり、行くように指示されたりする導きを経験すべきです。なぜならあなたの人生はあなたの計画に従ってではなく、イエスの霊によって導かれ、諸召会を生み出すための増殖の道を歩むべきだからです。

あなたの人生には、ビジネスにおける発展の中に神聖な歴史を持っていなければなりません。またビジネス自体は主役ではなく、脇役であるべきなので、ビジネスを最優先してはいけません。このことは、ビジネスをいいかげんに扱い、楽な仕事に就いた方がいいということでは決してありません。あなたはクリスチャンとして、人には理解できないことを理解することができ、人には実行できないことを実行することができるからです。あなたはビジネスにおいても強い証しを持つことができます。

あなたは神の命を持っているとはいえ、全知全能の神ではないので、将来何が起り、あることが将来どのような影響を与えるのかということを中心に理解することは不可能です。しかし、神は全知全能であり、あなたの益のためにすべてのことをアレンジすることができます。

ローマ 8:28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

あなたに必要な事は、自分を主の御手にゆだね、イエスの霊のインストラクション(指示)に従って歩むことを学ぶことです。そうすれば、あなたの人生において神聖な歴史を持ち、召会の建造と繁殖増をもたらすことができます。召会の建造のためには、サタン反対があるので、あなたは苦難を経過します。しかし、あなたは苦難を恐れてはいけません。イ

エスの霊は召会建造のための苦難の中で、あなたを支えることができます。あなたがこのようにイエスの霊によって導かれ前進するならば、神聖な歴史、召会建造のゆえに、あなたのビジネス・ライフや研究生活は大いに祝福されるでしょう。
兄弟の証し:私は世界最大の米系医療機器会社で勤めて7年目に、その年の業績(成熟した日本市場において新製品導入による25%以上の成長を達成)が評価され、最終的に四十周年記念社誌に掲載されることになりました。その次の年に別の米系大手医療機器会社から転職の誘いがありました。ヘッド・ハンターから強い勧めがあったので、仕方なく面接だけ受けることにしました。あまり行く気がなかったので、さほど準備せず面接に臨みました。その後一次面接に合格したので、アメリカで幹部との面接を勧められました。私は、「最大手の会社で開かれた前途があるのだからこのような転職には応じられない」と考え、兄弟姉妹にそのことを伝えました。ところが伝えたすぐ後に、内側で最大手の会社に留まることを禁止し、この募集に応じるようにという感覚がありました。私はなぜなのだろうと考えましたが、留まることに強い不安を感じたので、これはイエスの霊の禁じることでであると理解しました。

転職後の4年目に、私の領域においてはおそらく日本で最高レベルの年収を取得することができました。一般的に大手医療機器会社の本社は東京にあり、大阪本社の会社の年収は東京の会社に比べて競争が少ないので低めに設定されています。ですから通常であればこのようなことは考えられないことです。またこの時に強い採用権限があったので、多くの兄弟姉妹、特に比較的就職しにくい留学生を多く採用することができました。この会社に勤める兄弟姉妹が当時の召会の献金の大部分を担っており、1億円を超していた学生センター等の借金の完済や、リジョイス・ガーデンの購入(補修を含め1億円強)、東京大集会所の献金等に大いに用いられました。

しかし同時に私はその会社でも多くの激しい苦難を受けて、何度もくじけそうになりましたが、取り組んでいる兄弟姉妹の祈りとイエスの霊の供給により、苦難の中で勝利を経験することができました。

この会社に勤めて5年目を過ぎた時、イエスの霊は、私が忙しすぎるので、会社を去るように導いていると感じました。この会社では、私は米国本社に最高の評価を受けていたので、私が会社を去ることは不可能なように思われました。しかし主に感謝します。イエスの霊の導きにしがたい前進する時、人には考えられないような方法で私の退職が祝福されました(特別退職金、ストック・オプション、3ヶ月の特別休暇など)。そして2017年の年末に実際に退職することができました。今は以前よりはるかに多くの時間を主の奉仕に使うことができている。

祈り:おお主イエスよ、私と私のビジネス・ライフ(または研究生活)をあなたにささげます。私は召会建造の道を真っすぐに歩み続けたいです。そのために私がイエスの霊に開き、イエスの霊に服従し、従うことを学ばせてください。主の道には苦難はあっても、それに勝る供給があります。イエスの霊の導きと供給の中で、勝利から勝利へと私を導いてください。アーメン!

詩歌355 ささげる — 万有を得る(英473)

- サタンを断ち、
かみに生きるひとの
せいも死もすべては、
キリスト、わがいのち、
 - われのようなものを
それにおうじないとは、
懺悔などと言うまい、
主のぐんたいに入る、
 - 無にひとしいい価、
ひと、事ぶつすべては、
主のものはわがもの、
無限のいのち享受す、
- かみに生一さる;
所とは無限;
そのひとのもの。
われの住まい、
主はえらばれた;
なんたること!
どんなたい価も;
何たるけん利!
支はらうだけで、
われのものぞ;
われは主といち;
何たるえきぞ!

Crucial Point②: イエスの霊の供給により、

正当な人となり、他の人に祝福を流し出す人になる

OL1: 復活の中でまだイエスの栄光が現されていなかったたので、まだなかったその霊は、イエスの人性を持つ霊です。今日、その霊は栄光が現されたイエスの人性で構成されています。

OL2: 「栄光が現されたイエスの霊が『今やあります』。…私たちは彼を受け、彼は私たちの中へと流れ込み、私たちを通して流れ出て、私たちから流れ出て祝福の川々となります。私たちは福音の宣べ伝えるために、召会の奉仕のために、私たちの日々の歩みのために、主の回復のために、イエスの人性の霊を経験し享受する必要があります。

ヨハネ 7:37 祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って叫んで言われた、「だれでも渇く者は、私に来て飲むがよい。38 私の中へと信じる者は、聖書が言っているように、その人の最も内なる所から、生ける水の川々が流れ出る」。39 イエスはこれを、彼の中へと信じる者たちが受けようとしているその霊について言われたのである。まだイエスの栄光が現されていなかったたので、その霊はまだなかったからである。

ピリピ 2:15 それは、あなたがたが、曲がったよこしまな世代のただ中で、責められるところのない、たぐらみのない、すなわち傷のない神の子供たちとなり、彼らの間で世にあつて発光体のように輝き、

私たちはみな何を行なうにも、イエスを私たちの人性とすることによって、彼と一でなければなりません。もし私たちが活動している中で彼の人性を取ることができないなら、それをしないほうが良いのです。私は、私たちが人であるべきではないと言っているのではありません。…私たちはイエスの人性を必要とします。この人性はイエスの霊の中にあります。

私たちは、私たちの人性によってではなく、主の人性によって、正常な人でなければなりません。私たちは妻として、彼の人性によって妻でなければならず、夫として、彼の人性によって夫でなければならず、学生として、イエスの人性によって学生でなければなりません。…私たちがこのような人であるなら、他の人を満足させる命の流れを持つでしょう。教師であるすべての兄弟姉妹がこのような人であるなら、学校の中に真の命の流れがあるようになると、私は信じます。他の教師と学生たちは、満足させる、生きた、流れるものが、あなたの内側にあることを認識するでしょう。彼らはそれを説明することができないかもしれませんが、それを感じるでしょう。

あなたがイエスの人性を享受することによって、イエスを飲んでいる兄弟であるなら、あなたには力はないように見えるかもしれませんが、あなたの内側の命の流れは他の人を満足させ、納得させ、引き付け、最終的に回心させるでしょう。これが召会生活における福音の拡大です。このような福音の宣べ伝えるは、それほど力には依存しておらず、キリストの人性を享受する生活に依存しています。イエスの人性は、賜物のある人を生み出すことと大いに関係があるだけでなく、また内なる命の流れを生み出して他の人を満足させます。絶えずイエスの霊を飲むことによってイエスの人性を享受することによる以外に、そのような命の流れを持つ道はありません。私たちは自分の観念において真の変化を持つ必要があります。私たちは祈るときはいつでも、この概念をもって祈らなければなりません。私たちがその霊から飲んでいるときはいつでも、この概念をもって彼から飲まなければなりません。私たちが力、大能、奇跡のためにその霊から飲んでいるのではなく、イエスの人性のためにイエスの霊から飲んでいるのです。

あなたは自分が主を信じ救われているので、あくせく働いたり、一生懸命勉強したりしなくてもいいのではないかと考えて、怠惰な学生生活を送ってはいけません。そのような人はイエスの人性を持った正しい人ではなく、人間性が貧しく怠惰な人です。

あなたは学校で主の証し人になるために、イエスの霊の供給によってイエスの人性で構成されるべきです。イエスの証し人である学生は、第一に勉学においてイエスの霊の供給を経験します。第二に学校での人間関係においてイエスの霊の供給を経験します。第三に家庭での親子関係においてイエスの霊の供給を経験します。その霊の豊かな溢れ流れは、イエスの人性を持った人を通して流れます。

例えば受験生の兄弟姉妹は、イエスの霊によって勤勉に、自分のベストを尽くして勉強してください。そうすればイエスの霊は、あなたを造り変え、あなたをさらに勉強において前進させることができます。そしてあなたを通してイエスの霊の溢れ流れ出があるようになり、周りの人が多く主にもたらされることができるでしょう。

祈り: おお主イエスよ、イエスの霊の豊かな供給を受けて享受します。勉強において、怠惰になつたりやる気を失つたりすることから私を救ってください。主の御名を呼び、イエスの霊の供給に頼ります。私を勉学に励む正しい学生としてください。

学校での人間関係や両親との親子関係においても、私が正しい人になるために、イエスの人性が必要です。主の御名を呼び、自分のわがままや曲った人間性を吐き出し、イエスの人性をもったイエスの霊を吸い込みます。主イエスよ、私をイエスの証し人にしてください。アーメン！

詩歌 662 福音を宣べ伝える一命を流し出す(英 925)

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. えい光のふく音は、 | いのちのながれ; |
| ひとはすくわれる、 | 生けるあかしで。 |
| 複) 生けるみずながし、 | いのちあらし、 |
| ひとの霊を生かす | うつわとなせや。 |
| 2. いのちのあかしで、 | ひとはしんじる; |
| いのち、供きゆうされ、 | 主を受け入れる。 |
| 3. ぶどうの木のように、 | 主のなかに住み、 |
| いのちをながして、 | 主を供きゆうする。 |
| 4. せいかつのなかで、 | 主を表げんする; |
| ことばだけでなく、 | いのち植え込む。 |

詩歌 イエスの証しとなる

- 主イエス、ふかく愛す、純粋もとめ
ときをあがない享受す、愛めぐみを。
いま自分自身を主にささげます。
すばらしいじょう就、めぐみ、あわれみゆえ。
みやーのもんで、わがみみをひらき
あなたが召すとき、永遠に忠信でありたい。
なが愛とねたみのこころにわれ印としませ。
生一一涯あなたをあいします。
- かみよ、ひれ伏します、おく義見せる
知恵とけいじの霊を あたえませ。
あなたのしんせいな エコノミー。
キリストのからだのためわれささげる。
実際にもたらず ひとつ霊のなかで
すくい エン ジョ イシ、イエスのあかしとな一る。
主よはやく来ませ ! あなたはやくそくされた。
主のさいりんのみ わがのぞみ。

第一系列 高い福音

第二題目 キリストは人生の意義である

コロサイ 3:4 私たちの命なるキリストが現される時、あなたがたも、彼と共に栄光のうちに現されます。

ヨハネ 5:24 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。私の言を聞いて、私を遣わされた方を信じる者は、永遠の命を持っており、また裁きを受けることがなく、死から命へ移っているのである。

神には私たちが必要であり、 私たちにはキリストが必要である

神には人が必要です。また、人にはキリストが必要です。人がいなければ、神は彼の御旨を完成することができません。人がいなければ、神は何もできません。一面、私たちは言わなければなりません、「キリストがなければ、私は何もできません」。私たちがなければ、神は何も行うことができません。また、キリストがなければ私たちも何も行うことができません。神には私たちが必要であり、私たちにはキリストが必要です。私たちがここにいるのは神のためであり、キリストがここにいるのは私たちのためです。

もし私たちが神のためでなければ、またもし私たちのためのキリストがいなければ、私たちは悲惨であり、哀れです。不幸なことに、これは今日のこの世の人の真の光景です。この世の人は神のためではなく、彼らのためのキリストも持っていません。彼らは自分を主とし、自分に信頼しています。しかし私たちクリスチャンは彼らとは違います。なぜなら私たちは神のためであり、そして私たちのためのキリストを持っているからです。

キリストを私たちの命とする

人は多くの事を行うことができないかもしれませんが、呼吸し、食べ飲むことはできます。小さい赤ちゃんでさえ、どのように食べ飲み、呼吸するかを知っています。誰からも教えてもらう必要はありません。同じ様に、霊的な領域において私たちにできないことがあります。キリストを吸い込み、キリストを飲み、そしてキリストを私たちの食物として受け入れることはできます。キリストは、空気、息、水、ジュース、糧食、食物です。ですから私たちはみな彼を吸収することができます。神は、私たちが自分によって彼を表現し、自分で彼のために何かを行うことを願っておられません。神の目的は、私たちがキリストを命として受け入れ、そして彼を表現し、彼のために事を行うことです。

二つの大きな間違いがあります。一つはこの世の人が犯すもの、もう一つはクリスチャンが犯すものです。この世の人の大きな間違いは、彼らが神のために何も行わないことです。もう一面、クリスチャンが自分の力によって神のために行うことも、大きな間違いです。正しい道は、自分によってではなくキリストを私たちの命とすることによって、神のために事を行うことです。主イエスは言われました、「私を離れては、あなたがたは何もすることができないからであ

る」(ヨハネ 15:5)。使徒パウロは言いました、「私は、私を力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行うことができます」(ピリピ 4:13)。キリストがなければ、私たちは何もできませんが、キリストがあれば、キリストの中で私たちはすべての事を行うことができます。主はヨハネ 14章 20節で弟子たちに告げました、「その日には、私が私の父の中におり、あなたがたが私の中におり、私があなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう」。私たちがキリストを持っていないわけではありません。私たちがキリストを持っており、キリストの中にいます。

今日、人類社会の中には、むなしさと苦しさ以外に何もありません。なぜならこの世の人はみな、間違った道にあるからです。彼らは神と何のかかわりもありません。しかしながら、クリスチャンは自分によって神のために何かを行おうとしています。この終わりの時代に、主には回復したいことがあります。そしてこの回復はおもに若い世代を通してです。ですからあなたがた若者はみな、どのようにキリストをあなたがたの命とし、神のために事を行うべきかを学ぶべきです。もしあなたがたが、ここで何をしているのかと聞かれたなら、「ここで勉強をしています」、「ここで仕事をしています」と言うべきではありません。あなたたちは「私が日本にいるのは、神のためです!」と答えなければなりません。若者たちはここに何のためにいるのでしょうか? 彼らがここにいるのは神のためです! では、どのような方法によってでしょうか? キリストを彼らの命とすることによってです! これは、彼らがキリストを吸い、キリストを飲み、キリストを食べることを意味します。

私たちがなければ神は何もできません。キリストがなければ、私たちも何もできません。私たちは神のための器であり、キリストを私たちの命とする必要があります。私たちがキリストを私たちの命として受け入れるのにふさわしいのです。これは何と不思議なことでしょう。動物が造られたのは、キリストを受け入れるためではありません。しかし、私たちはキリストを受け入れるためです。私たちにはキリストを受け入れる資格があります。

詩歌 38 1

1. 主、わがいのち、うちに生く;
かみの豊富で われ、満たす。
なが性しつで われきよめ、
復かつの大能、 勝利得さす。
2. いのちの流通、 われ照らし、
ひかりのなか、 まじわりす;
種々の供給と、 要求もあり、
われをきよめ、 享受させる。
3. なれはその霊、 あぶら塗り、
れい、 たましいに 浸みわたり、
ながかたちに つくり変え、
身のたけまで 成長させる。